

# 2015年3月期 第2四半期 決算説明会

---

2014年11月6日  
株式会社メイテック

人と技術で次代を拓く

**MEITEC**

メイテックグループ

1. 2015年3月期第2四半期 業績
2. 2015年3月期 業績予想
3. ご参考資料

- ・ 私からは、目次の1. 第2四半期の実績と、2. 通期の予想を説明させていただきます
- ・ 3. のご参考資料は、のちほど、ご覧ください

## 1. 2015年3月期第2四半期 業績

人と技術で次代を拓く  
**MEITEC**  
メイテックグループ

- それでは、2015年3月期 第2四半期業績から説明します

- ✓ 主要顧客である大手製造業が技術開発投資を持続された為、エンジニア派遣事業が業績をけん引し、売上高は前年同期比9.9%増収、営業利益は37.3%増益
- ✓ 老朽化した大型研修施設等の利用停止を主因とした約35億円の特別損失により、四半期純利益は前年同期比88.6%減益の1億94百万円

グループ連結 (百万円)	'14年3月期 第2Q実績	'15年3月期 第2Q実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	14年5月公表 2Q期初予想	予想比 増減額
売上高	35,754	39,300	+3,545	+9.9%	38,200	+1,100
売上原価	26,607	29,366	+2,758	+10.4%	28,600	+766
原価率	74.4%	74.7%	+0.3%			
販売管理費	6,239	5,941	▲297	▲4.8%	6,300	▲359
営業利益	2,907	3,992	+1,084	+37.3%	3,300	+692
営業利益率	8.1%	10.2%	+2.0%		8.6%	+1.6%
経常利益	2,931	4,012	+1,080	+36.9%	3,300	+712
特別損益	△18	△3,456	▲3,438			
税金等調整前四半期純利益	2,913	555	▲2,357	▲80.9%		
四半期純利益	1,706	194	▲1,511	▲88.6%	2,050	▲1,856
四半期純利益率	4.8%	0.5%	▲4.3%			

5

- ・ グループ連結の業績概要です。
- ・ 主要顧客の大手製造業では、景況に左右される事なく次代を見据えた技術開発投資を持続されています。
- ・ 引き続き、エンジニア派遣事業が業績をけん引し、連結の売上高は前年同期比9.9%増収の393億円、営業利益は37.3%増益の39億92百万円、となりました。
- ・ なお、5月公表の期初予想との比較で、売上高は+11億円、営業利益と経常利益は+約7億円、それぞれ上振れで着地しました。
- ・ 続いて、特別損失の内容です。
- ・ のちほど詳細に説明しますが、老朽化した大型研修施設などの利用停止を決定し、約35億円の減損損失を計上しました。
- ・ この結果、連結四半期純利益は1億94百万円となりました。
- ・ ただし、中間配当は期初予想どおりとしました。利益配分は、最後に説明します。

- ✓ 引き続き、連結売上高の9割超を占める派遣事業が業績をけん引
- ✓ 全てのセグメントにおいて、前年同期比で増収、営業利益は増益

グループ・セグメント (百万円)	'14年3月期 第2四半期実績	'15年3月期 第2四半期実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
派遣事業 売上高	34,237	37,546	+3,308	+9.7%
構成比	95.8%	95.5%	▲0.2%	
営業利益	2,789	3,788	+999	+35.8%
紹介事業 売上高	488	632	+144	+29.7%
構成比	1.4%	1.6%	+0.3%	
営業利益	99	152	+52	+52.7%
エンジニアリングソリューション事業 売上高	1,200	1,359	+159	+13.3%
構成比	3.4%	3.5%	+0.1%	
営業利益	16	47	+31	+194.8%

※2015年3月期 第1四半期より事業セグメントの区分を変更し、従来の「グローバル事業」は「紹介事業」に含めております。  
なお、前年同期比は前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

- ・ グループ・セグメント別の業績です。
- ・ 連結売上高の9割超を占める派遣事業、特に中核のエンジニア派遣事業が業績をけん引しました。
- ・ 上半期は、全てのセグメントで、前年同期比で増収増益となりました。

- ✓ 稼働人員数の増加により、売上高は前年同期比9.0%増収、営業利益は36.5%増益
- ✓ 老朽化した大型研修施設等の利用停止を主因とした約35億円の特別損失により、四半期純利益は前年同期比90.1%減益の1億72百万円

メイトック (百万円)	'14年3月期 第2Q実績	'15年3月期 第2Q実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	14年5月公表 2Q期初予想	予想比 増減額
売上高	28,150	30,682	+2,531	+9.0%	29,800	+882
売上原価	21,094	23,091	+1,997	+9.5%	22,500	+591
原価率	74.9%	75.3%	+0.3%		75.5%	▲0.2%
販売管理費	4,664	4,325	▲339	▲7.3%	4,600	▲275
営業利益	2,392	3,265	+873	+36.5%	2,700	+565
営業利益率	8.5%	10.6%	+2.1%		9.1%	+1.5%
経常利益	2,791	3,697	+905	+32.4%	3,100	+597
特別損益	△ 43	△ 3,455	▲3,412			
税引前四半期純利益	2,748	242	▲2,506	▲91.2%		
四半期純利益	1,745	172	▲1,572	▲90.1%	2,050	▲1,878
稼働率(全体)	92.8%	93.9%	+1.1%		93.2%	+0.7%
稼働時間(h/day)	8.89	8.90	+0.01	+0.1%	8.89	+0.01
期末エンジニア社員数<名>	5,851	6,209	+358	+6.1%		

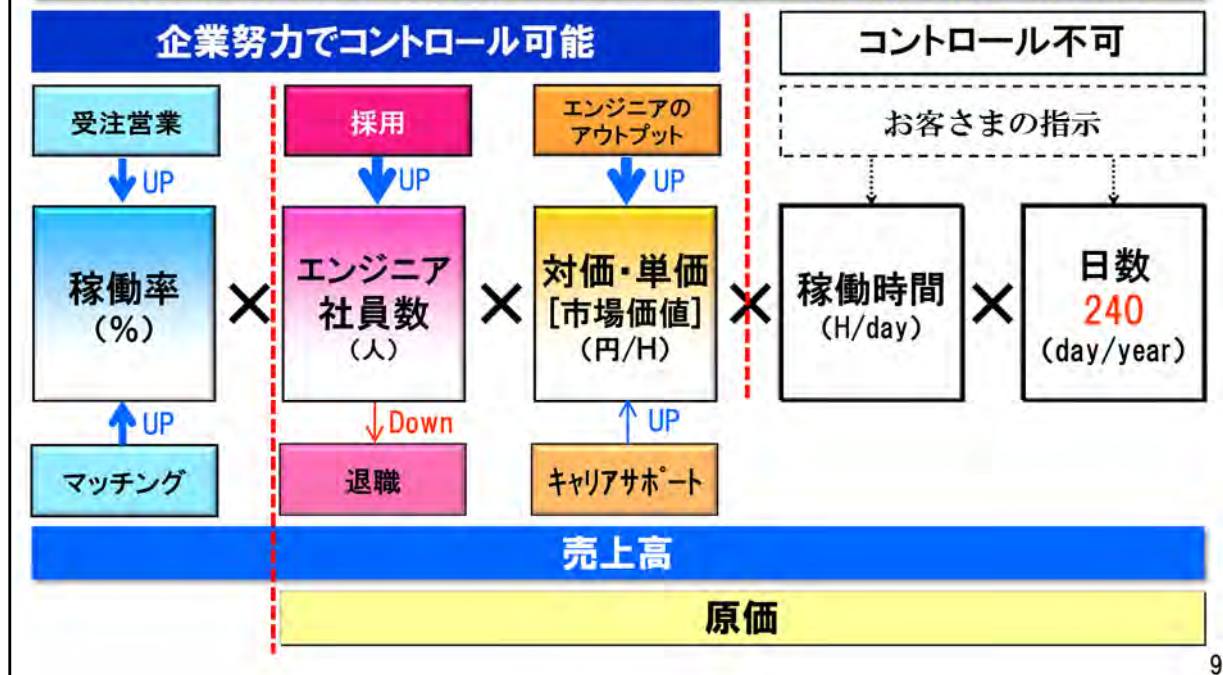
- ・ メイトック単体の業績概要です。
- ・ 稼働人員数の増加などにより、売上高は前年同期比9.0%増収の306億82百万円、営業利益は36.5%増益の32億65百万円、となりました。
- ・ なお、5月公表の期初予想との比較で、売上高は+約9億円、営業利益と経常利益は+約6億円、それぞれ上振れで着地しました。
- ・ そして、約35億円の減損損失により、四半期純利益は前年同期比90.1%減益の1億72百万円となりました。
- ・ 上半期の稼働率は、前年同期比+1.1%、期初予想比+0.7%の93.9%となりました。
- ・ これは、今年4月入社の新卒エンジニア社員の客先業務への配属が順調に進んだほか、既存のエンジニア社員も配属が順調であったためです。

- ✓ 稼働人員数の増加により、売上高は前年同期比14.2%増収、営業利益38.8%増益
- ✓ 新卒配属も順調で、2Q累計の稼働率は93.4%(前年同期は91.9%、+1.5%)

メイテックフィルダース (百万円)	'14年3月期 第2Q実績	'15年3月期 第2Q実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	14年5月公表 2Q期初予想	予想比 増減額
売上高	5,037	5,753	+716	+14.2%	5,500	+253
売上原価	3,878	4,453	+575	+14.8%	4,250	+203
原価率	77.0%	77.4%	+0.4%		77.3%	+0.1%
販売管理費	808	813	+5	+0.7%	850	▲37
営業利益	350	486	+135	+38.8%	400	+86
営業利益率	7.0%	8.5%	+1.5%		7.3%	+1.2%
経常利益	351	486	+135	+38.4%	400	+86
特別損益	0	0	—			
税引前四半期純利益	351	486	+135	+38.5%		
四半期純利益	217	297	+79	+36.6%	250	+47
稼働率(全体)	91.9%	93.4%	+1.5%		90.4%	+3.0%
稼働時間(h/day)	8.97	8.99	+0.02	+0.2%	8.97	+0.02
期末エンジニア社員数<名>	1,443	1,606	+163	+11.3%		

- ・ メイテックフィルダース単体の業績概要です。
- ・ メイテック同様、稼働人員数の増加により、売上高は前年同期比14.2%増収の57億53百万円、営業利益は38.8%増益の4億86百万円、四半期純利益は36.6%増益の2億97百万円、となりました。
- ・ なお、5月公表の期初予想との比較で、売上高は+約2.5億円の上振れで着地しました。
- ・ 上半期の稼働率は、前年同期比+1.5%、期初予想比+3.0%の93.4%と高い水準になりました。
- ・ これは、新卒入社エンジニアの早期配属が順調に実現できた結果です。

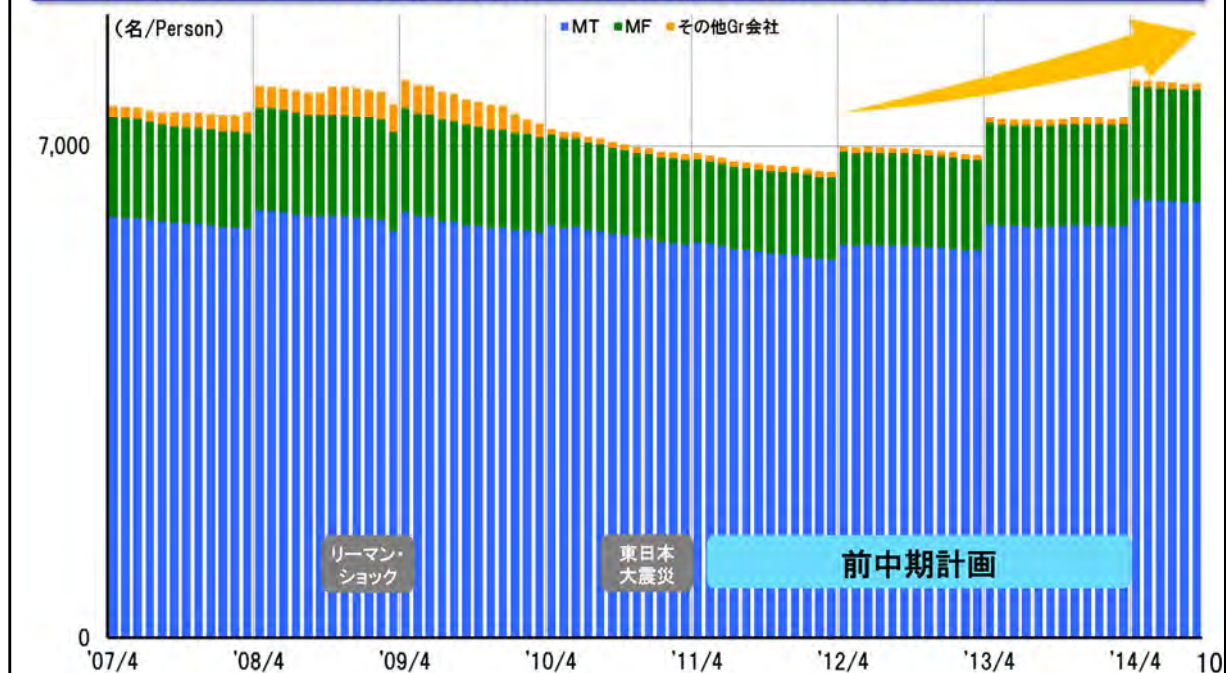
✓ 無期雇用・正社員エンジニアの派遣事業では、  
高水準の「稼働率と対価」を維持・向上しながら、エンジニア社員数の増員が成長の鍵



- ・ 半年前にもお示した「無期雇用・正社員エンジニア派遣事業の売上高・原価の概要」です。
- ・ 上半期は、稼働率が前年同期と比べても高い水準に到達し、エンジニア社員数も増員できた為、増収増益を確保しました。



- ✓ 積極的に増員を推進中
- ✓ 9月末のエンジニア社員数は7,909名(前年9月末比+525名、+7.1%)



- ・ グループのエンジニア社員数の推移です。
- ・ 積極的に増員を推進していますが、9月末のエンジニア社員数は7,909名で、前年9月末比+525名、増加率は+7.1%でした。
- ・ グループのエンジニア社員数は、ようやく過去最高の水準まで戻ってきました。
- ・ 今後も、採用と退職防止を両立し、「技術力と人間力」をあわせもつ「プロのエンジニア集団」を拡大して参ります

- ✓ 9月末エンジニア社員数は6,209名(前年9月末比+358名、+6.1%)
- ✓ なお、2017年3月末のエンジニア社員数は6,800名を目標



- ・ メイトック単体のエンジニア社員数の推移です。
- ・ 上半期は、過去最高水準の社員数を維持しました。
- ・ 9月末のエンジニア社員数は6,209名で、前年9月末比+358名、増加率は+6.1%でした。
- ・ 中期計画で掲げた2017年3月末のエンジニア社員数の目標6,800名まで、あと約600名です。

- ✓ 9月末エンジニア社員数は1,606名(前年9月末比+163名、+11.3%)
- ✓ なお、2017年3月末のエンジニア社員数は1,900名を目標



- ・ メイトックフィルダーズ単体のエンジニア社員数の推移です。
- ・ メイトックと同様、上半期は過去最高水準を維持しました。
- ・ 9月末のエンジニア社員数は1,606名で、前年9月末比+163名、増加率は+11.3%でした。
- ・ 中期計画で掲げた2017年3月末のエンジニア社員数の目標1,900名まで、あと約300名です。

## 中途採用(2015年3月期)の状況

- ✓ エンジニア採用市場の意欲はさらに上昇基調にあり、転職希望者の書類通過数が対前年比で倍増になるなど、厳しい採用環境を認識
- ✓ こうした状況下、受注動向に即した機械系・電気電子系を中心として、円滑な配属を前提にした採用基準を保持して活動を継続中  
→ 今年度のグループの中途採用目標数を期初予想比▲40名の315名へ下方修正

## 新卒採用(2015年4月入社)の状況

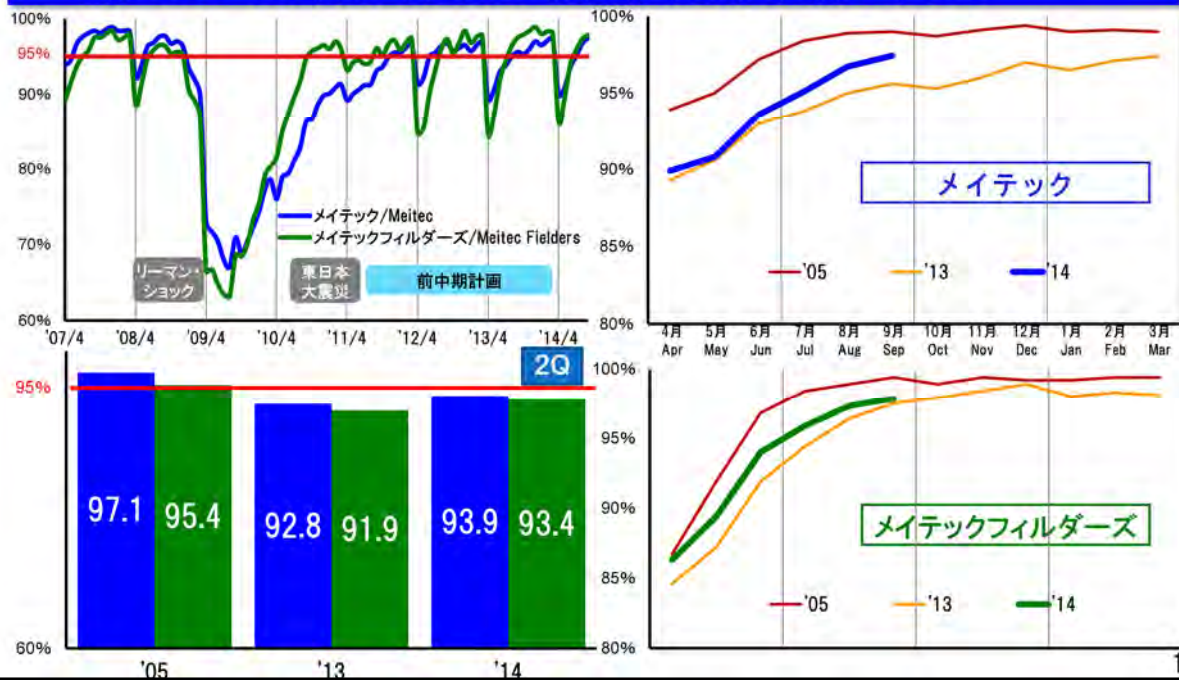
- ✓ 求人企業数増・募集人員増に見られる求人意欲の上昇に加えて、活動の早期化や強い地元志向など、極めて厳しい採用環境であった
- ✓ こうした状況下、応募者の確保に苦戦しつつも、採用基準の保持を前提に活動した
- ✓ 内定者数は、メイテックで期初予想比▲91名の未達となったが、メイテックフィルダーズは期初予想どおりとなった

(名)	2015年3月期					2016年3月期	
	14年4月入社 新卒採用数 (実績)	中途採用数 〈目標〉	期初予想比	採用数合計 〈目標〉	期初予想比	15年4月入社 新卒採用数 (10月1日内定者数)	期初予想比
メイテック	378	200	▲30	578	▲30	309	▲91
メイテック フィルダーズ	173	115	▲10	288	▲10	176	+1
合計	551	315	▲40	866	▲40	485	▲90
14年3月期比	+5	▲29		▲24			

13

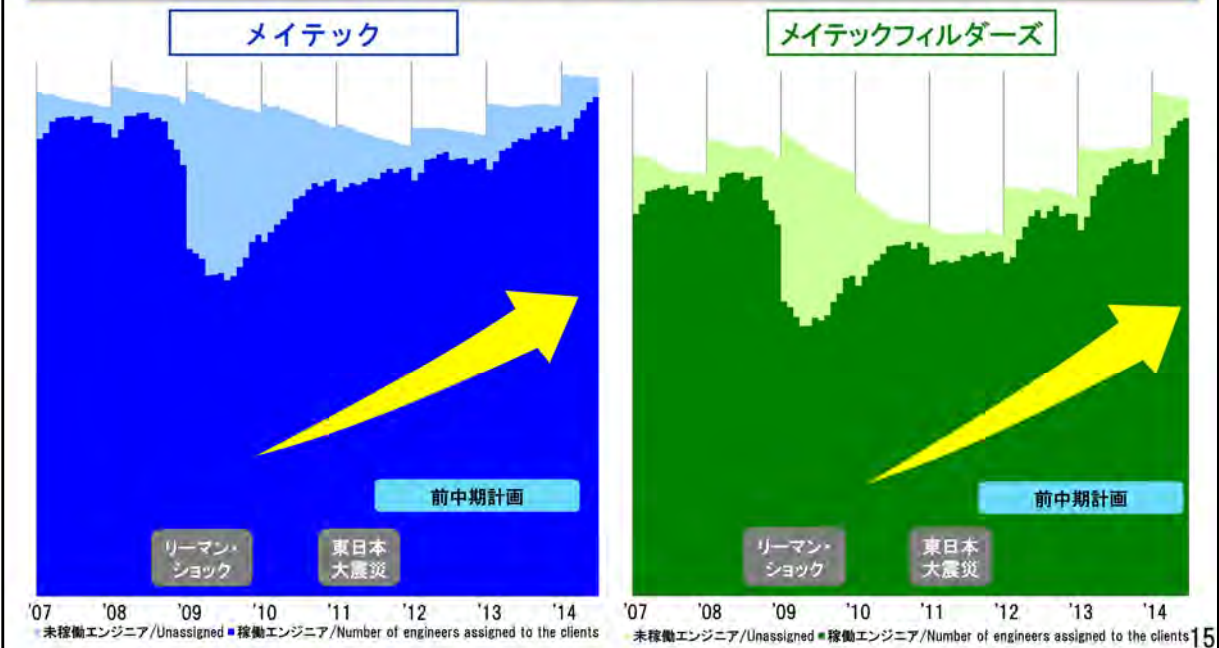
- ・ 採用環境は、御存じの通り、大変厳しい状況ですが、「質を重視」して取り組んでいます。
- ・ まず、中途採用ですが、当年度のメイテック・メイテックフィルダーズ・2社合計の中途採用数を期初目標から▲40名下方修正し、315名としました。
- ・ 採用市場の意欲は、さらに上昇基調で、転職希望者の書類通過数が対前年比で倍増、すなわち、採用基準の緩和が進み、とても厳しい環境と認識しています。
- ・ メイテックグループでは、受注動向を見ながら、機械系・電気電子系を中心に、稼働率の低下を招かないよう、円滑な配属を前提にした採用基準を保持しています。
- ・ 次に、来年4月入社の新卒採用ですが、求人企業数や募集人員の増加など求人意欲の上昇に加えて、活動の早期化や強い地元志向など、極めて厳しい環境でした。
- ・ 応募者確保に苦戦しつつも、メイテックグループは採用基準の保持を前提に活動してきました。
- ・ 結果、内定者数は485名で、メイテックは期初目標比▲91名の未達、しかし、メイテックフィルダーズは期初の目標数を確保しました。
- ・ なお、新聞記事によれば485名の水準は、日本企業全体で29番、理工系では4番の規模です。

✓ 新卒入社エンジニアの稼働が期初計画より順調に進み、また、既存エンジニアの稼働にも注力した結果、前年同期の実績を上回った



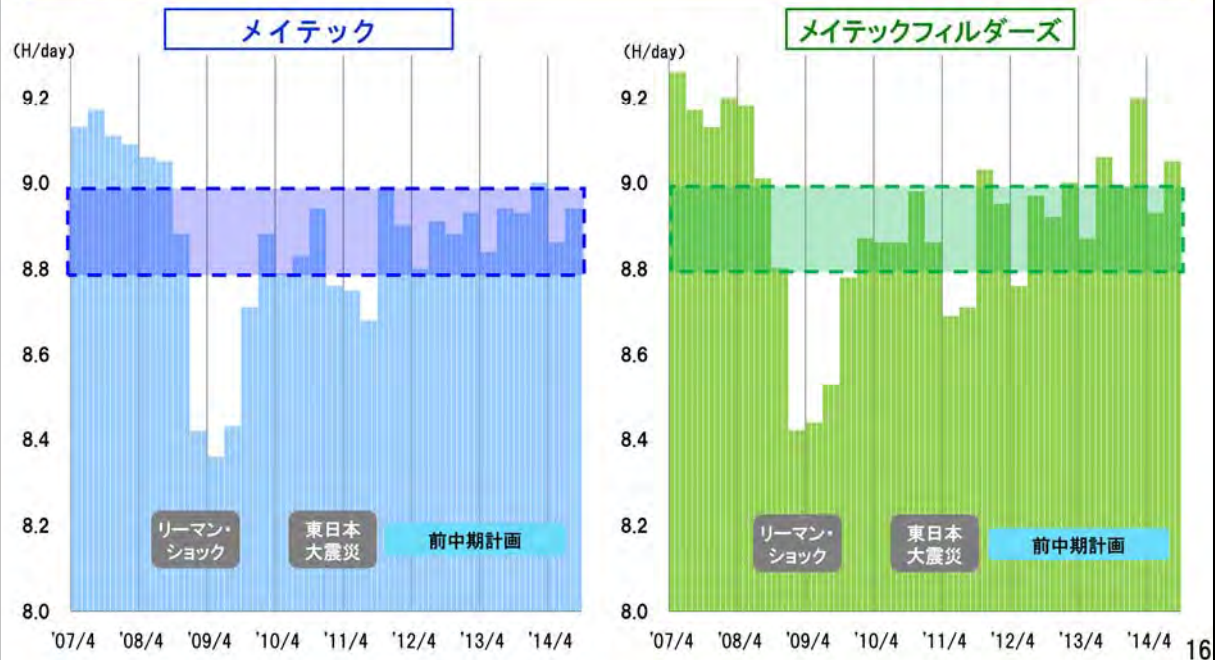
- ・ 稼働率の推移です。
- ・ 左上のグラフで示した通り、これまでも稼働率が95%を超えているとおおむね好調、と判断してきました。
- ・ 稼働率は、メイテック、メイテックフィルダースともに、今年4月入社の新卒エンジニア社員の客先業務への配属が順調に進んだ為、前年同期を上回っています。

✓ 積極採用による「エンジニア社員数の増員」、受注獲得と早期配属による「高稼働の維持」を両立し、稼働人員数を着実に伸長



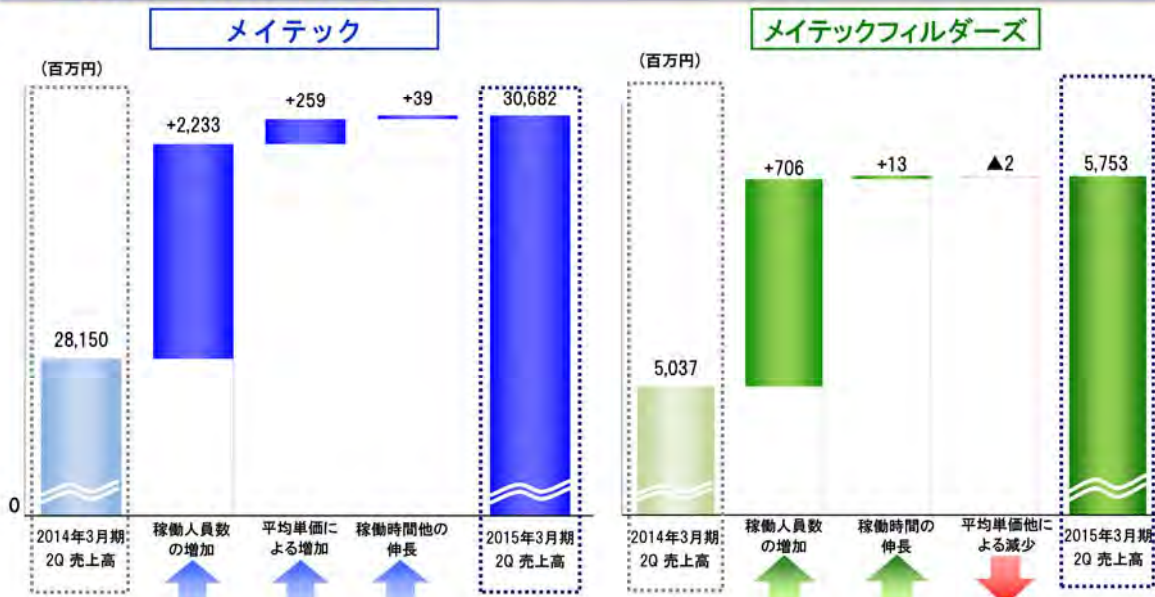
- ・ 稼働人員数の推移です。
- ・ 「エンジニア社員数」掛ける「稼働率」の「お客さま先で業務に従事する稼働人員数」は順調に伸長(しんちょう)しています。
- ・ 今後も継続して、エンジニアのキャリアアップにつながる受注案件を獲得し、早期配属に努め、稼働人員数の着実な伸長(しんちょう)を進めていきます。

✓ お客様のコスト抑制動向に変化は無く、メイトックの稼働時間は8.8～9.0H/Dayで安定的に推移  
※当社でコントロール不可



- ・ 稼働時間の推移です。
- ・ 稼働時間の0.1時間は売上高の約1%に該当しますので、業績影響の大きい指標の一つですが、稼働時間は、お客さま先の業務指示の結果なので、当社側でコントロールは不可能です。
- ・ なお、足元の状況は示した通りで、動向に変化は無く、メイトックの稼働時間は1日あたり8.8～9.0時間で安定的に推移しています。

✓ メイテック・メイテックフィルダーズともに、増収の主要因は「稼働人員数の増加」



- ・ エンジニア派遣事業の単体売上高の増減内訳です。
- ・ ここまでに説明してきた通り、メイテック、メイテックフィルダーズともに、増収の主要因は「稼働人員数の増加」であり、その影響額は記載の通りです。



✓ メイトック単体のお客さまの売上高TOP10は以下の通りです

注: 具体的計数の公表は差し控えます

(百万円)

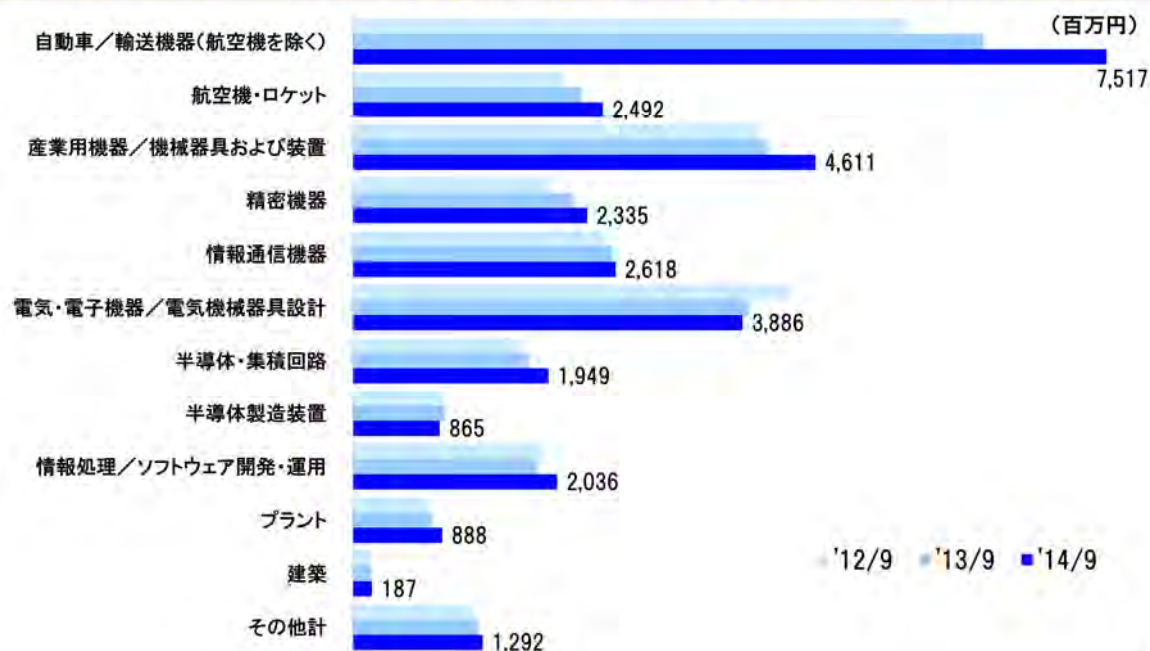
2010年3月期2Q (2009年度)			2014年3月期2Q (2013年度)			2015年3月期2Q (2014年度)		
1	パナソニック 様		1	三菱重工業 様		1	三菱重工業 様	
2	三菱重工業 様		2	デンソー 様		2	キヤノン 様	
3	キヤノン 様		3	ニコン 様		3	デンソー 様	
4	ソニー 様		4	キヤノン 様		4	パナソニック 様	
5	ニコン 様		5	パナソニック 様		5	ニコン 様	
6	デンソー 様		6	川崎重工業 様		6	川崎重工業 様	
7	トヨタ自動車 様		7	ソニー 様		7	トヨタ自動車 様	
8	セイコーエプソン 様		8	トヨタ自動車 様		8	オムロン 様	
9	川崎重工業 様		9	東芝 様		9	東芝 様	
10	オムロン 様		10	オムロン 様		10	ソニー 様	
トップ10社合計	7,327	36.5%	トップ10社合計	7,697	27.3%	トップ10社合計	7,986	26.0%
トップ20社合計	9,531	47.4%	トップ20社合計	10,862	38.6%	トップ20社合計	11,209	36.5%
その他	10,566	52.6%	その他	17,287	61.4%	その他	19,472	63.5%
合計	20,097	100.0%	合計	28,150	100.0%	合計	30,681	100.0%

18

- ・ メイトックのお客さまの売り上げTOP10です。
- ・ 順位に変動はありますが、TOP10圏内に入るお客さまに大きな変化は見られません。

✓ メイトック単体の業種別の売上高は以下の通りです。

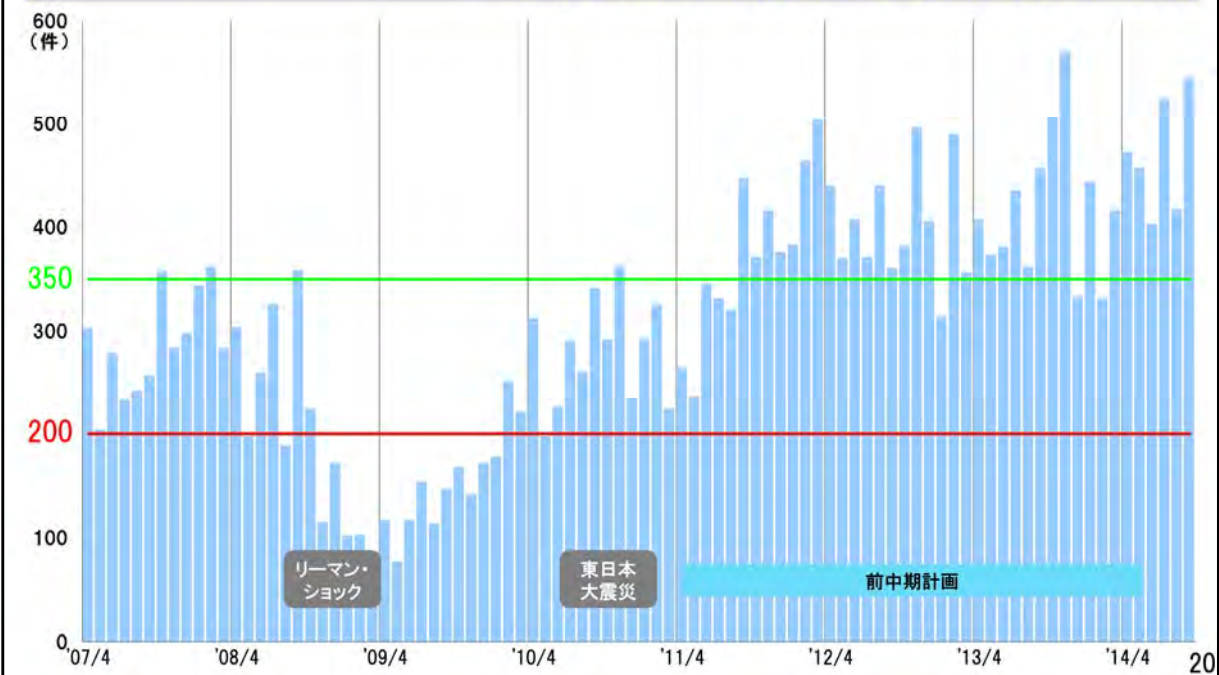
注：計数は「ご参考資料」に記載。お客さま別内訳や見通しは公表を差し控えます。



- ・ 業種別の売上高推移です。
- ・ 「自動車関連」の伸びが顕著でした。
- ・ 「電気・電子機器」は前期比でわずかに減少した程度でした。

✓ メイテック単体の月間新規受注は、堅調と見ている350件/月を超える水準

注: 新規受注の内訳(業種、お客さま、など)は公表を差し控えます



- ・ 月間新規受注動向の推移です。
- ・ 月間350件を超える新規受注件数をいただければ堅調、200件を下回る水準は危険な状態、と判断してきました。
- ・ したがって、足元は製造業のお客さまが長い視点で技術開発投資を進められている為、堅調が持続している、と認識しています。

- ✓ 大型研修施設等の維持費用の負担を軽減及び将来の費用増加リスクを削減
  - ・ 築後経過年数が17～29年 → 維持費用の負担が重い
  - ・ エンジニア派遣事業の高い稼働率 → 施設の利用率は低く、今後も継続見込み

年間の見通し

**減損損失(特別損失)     △3,458 百万円**

**税金費用(税効果)         +1,108 百万円**

**当期純利益の影響         △2,350 百万円**

- 中期計画の販管費見込みとの比較で、最大:約2億円/年の負担軽減見込み
- 老朽化による突発的・大規模修繕等の費用増加リスクも削減
- コスト削減効果を速やかに享受する為、売却する方針

(百万円)	減損損失	簿価
減損損失の合計	3,458	
① 神戸テクノセンター	1,895	2,270
② 厚木テクノセンター 社員寮	770	859
③ 日進テクノセンター	589	1,154
④ 名古屋テクノセンター ほかのうち、 名古屋EOC・メカトロC	202	1,238

※1. 簿価は有価証券報告書:設備の状況より抜粋

※2. 上記④の簿価は「名古屋テクノセンターほか」の簿価を記載

- ・ 減損処理に伴う特別損失の説明です。
- ・ 大型研修施設などは築後17年～29年を経過しており、維持費用の負担が重くなっています。
- ・ また、エンジニア派遣事業での高い稼働率を背景に施設の利用率は低水準で、今後も利用率の大幅な向上も見込めない状況です。
- ・ よって、維持費用負担の軽減および将来の費用増加リスクの削減を図る為に、当該施設の利用停止を決定しました。
- ・ 当該施設は維持コストを確実に圧縮し、経費削減効果を速やかに享受する為、更地化した上で売却する方針です。
- ・ 多額の特別損失となりますが、中期計画の販管費見込みとの比較では、最大で年間:約2億円の負担軽減を見込んでいます。

- ✓ エンジニア社員への教育・研修の質・量ともに問題は生じない、と判断
- 大型研修施設(テクノセンター)は2か所となるが、すでに大型施設を補完する地域密着型の中規模教育研修施設(EOセンター)を12か所設置済み

**大規模研修施設**

名古屋                      厚木  
テクノセンター      テクノセンター




**地域密着型・中規模教育研修施設  
(EOセンター)12か所**

東日本エリア	仙台、宇都宮、さいたま、筑波、東京、立川
神奈川・静岡エリア	横浜、静岡
中日本エリア	甲信越
西日本エリア	京都、大阪、福岡



1992年4月開設  
神戸  
テクノセンター



1985年7月開設  
名古屋EOC・  
メカトロC



1997年3月開設  
日進  
テクノセンター



1993年3月開設  
厚木テクノセンター  
社員寮



- ・ 今回の利用停止の決定によっても、エンジニアに対する教育・研修の質・量ともに問題は生じない、と判断しています。
- ・ 今回の決定で、大型研修施設(テクノセンター)は2か所に減少します。
- ・ しかしながら、すでに大型施設を補完する地域密着型の中規模教育研修施設(EOセンター)を全国12か所に設置済みで、継続した運用に支障は生じない、と判断しています。

## 2. 2015年3月期 業績予想

人と技術で次代を拓く  
**MEITEC**  
メイテックグループ

- ・ 2015年3月期の修正後の業績予想です。

- ✓ 堅調な受注環境が持続する前提で、エンジニア派遣事業の主要指標を修正し、連結業績予想を修正
- ✓ 売上高:804億円(前期比+7.3%)、営業利益:85億円(+21.8%)、  
経常利益:86億円(+23.2%)  
当期純利益は特別損失の影響を反映し、前年同期比▲14.4%の34億円

グループ連結 (百万円未満切捨て)	'15年3月期 公表予想	前期比 増減額	前期比 増減率	2四半期累計 実績	下半期予想 3Q+4Q	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	80,400	+5,493	+7.3%	39,300	41,100	+1,948	+5.0%
売上原価	59,300	+3,929	+7.1%	29,366	29,934	+1,171	+4.1%
販売管理費	12,600	+43	+0.3%	5,941	6,659	+342	+5.4%
営業利益	8,500	+1,520	+21.8%	3,992	4,508	+436	+10.7%
営業利益率	10.6%	+1.3%		10.2%	11.0%	+0.6%	
経常利益	8,600	+1,621	+23.2%	4,012	4,588	+541	+13.4%
当期純利益	3,400	▲573	▲14.4%	194	3,206	+938	+41.4%
1株当たり当期純利益(EPS)	111.27	▲17.03		6.35			

- ・ 堅調な受注環境が持続する前提で、エンジニア派遣事業における主要指標を、足元の動向も踏まえて修正し、通期の連結業績予想を修正しました。
- ・ 新たな連結業績の予想ですが、売上高は前期比+7.3%の804億円、営業利益は前期比+21.8%の85億円、経常利益は前期比+23.2%の86億円、当期純利益は先にお伝えしていますように、約35億円の減損損失を反映し、前期比▲14.4%の34億円の予想としました。

- ✓ 年間売上高予想の期初予想比の上振れは、上半期の影響が大半
- ✓ 年間の当期純利益予想の期初予想比▲15億円下振れの内訳は  
上半期▲18.5億円下振れ＋下半期3.5億円上振れ

※ 期初予想比、下半期売上の上ブレ縮小は、エンジニア数の大きな増員が見込めない為

グループ連結 (百万円未満切捨て)	'15年3月期 公表予想	期初予想比 増減額	期初予想比 増減率	2四半期累計 実績	下半期予想 3Q+4Q	期初予想比 増減額	期初予想比 増減率
売上高	80,400	+1,400	+1.8%	39,300	41,100	+300	+0.7%
売上原価	59,300	+1,000	+1.7%	29,366	29,934	+234	+0.8%
販売管理費	12,600	▲400	▲3.1%	5,941	6,659	▲41	▲0.6%
営業利益	8,500	+800	+10.4%	3,992	4,508	+108	+2.5%
営業利益率	10.6%	+0.8%		10.2%	11.0%	+0.2%	
経常利益	8,600	+900	+11.7%	4,012	4,588	+188	+4.3%
当期純利益	3,400	▲1,500	▲30.6%	194	3,206	+356	+12.5%

- ・ 新たな連結業績の予想と、5月に公表した期初予想との比較です
- ・ 通期の売上高は、期初予想比＋14億円で、上半期＋11億円、下半期は＋3億円の予想です。
- ・ 通期の営業利益は、期初予想比＋8億円で、上半期＋約7億円、下半期は＋1億円の予想です。
- ・ 期初予想比において、下半期の上振れ幅が上半期より縮小するのは、稼働率が高い水準(上昇の余地が無い)にある中、下半期にはエンジニア社員数の大きな増員が見込めない為です。
- ・ 通期の当期純利益は、期初予想比で▲15億円の下方修正ですが、上半期では約▲18.5億円下振れたのに対して、下半期は約＋3.5億円の上振れを見込んでいます。
- ・ この下半期の純利益の上振れ幅が、営業利益の上振れ幅と比較して拡大する要因は、所得拡大促進税制の適用を見込んだ影響です



## 2015年3月期業績予想 メイトック 前期比

- ✓ 子会社吸収影響を含む修正後の主要指標を前提に、売上高は前期比+8.0%の636億円、営業利益は+23.4%の71億円を予想
- ✓ 当期純利益は特別損失の影響を反映し、前年同期比▲3.6%の33億円を予想

メイトック (百万円未満切捨て)	'15年3月期 公表予想	前期比 増減額	前期比 増減率	2四半期累計 実績	下半期予想 3Q+4Q	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	63,600	+4,723	+8.0%	30,682	32,918	+2,192	+7.1%
売上原価	47,300	+3,557	+8.1%	23,091	24,209	+1,560	+6.9%
原価率	74.4%	+0.1%		75.3%	73.5%	▲0.2%	
販売管理費	9,200	▲182	▲1.9%	4,325	4,875	+156	+3.3%
営業利益	7,100	+1,348	+23.4%	3,265	3,835	+475	+14.1%
営業利益率	11.2%	+1.4%		10.6%	11.7%	+0.7%	
経常利益	7,600	+1,450	+23.6%	3,697	3,903	+545	+16.2%
当期純利益	3,300	▲125	▲3.6%	172	3,128	+1,447	+86.1%
稼働率(全体)	95.4%	+0.7%		93.9%	96.9%	+0.4%	
稼働時間(h/day)	8.93	—		8.90	8.96	—	
採用数(名)	578	▲21		2015年4月入社の 新卒採用見込み数		14年4月 実績比	
新卒採用数	378	▲1					
中途採用数	200	▲20					
退職率	4.3%	+0.3%		309		▲69	

27

- ・ メイトック単体の新たな業績予想は、下段の主要指標を前提に、売上高は前期比+8.0%の636億円、営業利益は前期比+23.4%の71億円、当期純利益は前期比▲3.6%の33億円、と予想しました。
- ・ 稼働率(全体)は、前期比+0.7%の95.4%を前提としました。

- ✓ 売上高における子会社吸収の影響は、期初予想比+21億円のうち、約7億円
- ✓ 中途採用数を下方修正(▲30名)したが、同時に退職率の見通しも下方修正(▲0.7%)  
→ よって、期末エンジニア数の社内計画値と大きな乖離は生じない見込み

メイトック (百万円未満切捨て)	'15年3月期 公表予想	期初予想比 増減額	期初予想比 増減率	2四半期累計 実績	下半期予想 3Q+4Q	期初予想比 増減額	期初予想比 増減率
売上高	63,600	+2,100	+3.4%	30,682	32,918	+1,218	+3.8%
売上原価	47,300	+1,500	+3.3%	23,091	24,209	+909	+3.9%
原価率	74.4%	▲0.1%		75.3%	73.5%	+0.0%	
販売管理費	9,200	▲200	▲2.1%	4,325	4,875	+75	+1.6%
営業利益	7,100	+800	+12.7%	3,265	3,835	+235	+6.5%
営業利益率	11.2%	+0.9%		10.6%	11.7%	+0.3%	
経常利益	7,600	+900	+13.4%	3,697	3,903	+303	+8.4%
当期純利益	3,300	▲1,100	▲25.0%	172	3,128	+778	+33.1%
稼働率(全体)	95.4%	+0.6%		93.9%	96.9%	+0.6%	
稼働時間(h/day)	8.93	+0.03		8.90	8.96	+0.05	
採用数(名)	578	▲30					
新卒採用数	378	—					
中途採用数	200	▲30					
退職率	4.3%	▲0.7%					
				2015年4月入社 新卒採用見込み数		309	期初 予想比 ▲91

- ・ メイトック単体の新たな業績予想と、5月に公表した期初予想との比較です。
- ・ 通期の売上高は、期初予想比+21億円で、上半期+9億円、下半期は+12億円の予想です。
- ・ なお、この通期の+21億円、下半期の+12億円には、子会社のメイトックCAEの吸収合併による影響を含んでおり、その額は約7億円と試算しています。
- ・ 次に、下段の主要指標です。
- ・ 中途採用数の目標を下方修正しましたが、同時に通期の退職率見通しも足元の動向を踏まえ、期初予想の5.0%から4.3%へ▲0.7%下方修正しました。
- ・ よって、今期末のエンジニア社員数の着地は、期初の社内計画値と、大きなかい離は生じない見込みです。
- ・ 通期の当期純利益は、期初予想比で▲11億円の下方修正ですが、上半期で約▲19億円下振れたのに対して、下半期は約+8億円の上振れを予想しています。
- ・ この下半期の純利益の上振れ幅の拡大は、税制優遇に加え、子会社合併に伴う利益の影響を織り込んでいます。

✓ 修正後の主要指標を前提に、売上高は過去最高の116.5億円(前期比+10.0%)、  
営業利益はで大台の10億円(+16.7%)、当期純利益は6億50百万円(+34.3%)を予想  
→「ボリュームゾーンNo.1に向けた拡大成長」

メイトックフィルダース (百万円未満切捨て)	'15年3月期 公表予想	前期比 増減額	前期比 増減率	2四半期累計 実績	下半期予想 3Q+4Q	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	11,650	+1,062	+10.0%	5,753	5,897	+346	+6.2%
売上原価	9,000	+915	+11.3%	4,453	4,547	+340	+8.1%
原価率	77.3%	+0.9%		77.4%	77.1%	+1.3%	
販売管理費	1,650	+3	+0.2%	813	837	▲1	▲0.1%
営業利益	1,000	+143	+16.7%	486	514	+8	+1.6%
営業利益率	8.6%	+0.5%		8.5%	8.7%	▲0.4%	
経常利益	1,000	+158	+18.8%	486	514	+23	+4.7%
当期純利益	650	+166	+34.3%	297	353	+87	+32.8%
稼働率(全体)	94.9%	▲0.3%		93.4%	96.4%	▲1.9%	
稼働時間(h/day)	9.03	—		8.99	9.07	▲0.02	
採用数(名)	288	▲3		2015年4月入社の 新卒採用見込み数		14年4月 実績比	
新卒採用数	173	+6					
中途採用数	115	▲9					
退職率	9.1%	+1.3%		176		+3	

29

- ・ メイトックフィルダースの新たな業績予想は、下段の主要指標を前提に、売上高は前期比+10.0%で過去最高の116.5億円、営業利益は前期比+16.7%の10億円の大台、当期純利益は前期比34.3%の6.5億円、としました。
- ・ 通期の稼働率は前期比▲0.3%の94.9%を、下半期の稼働率は前期比▲1.9%の96.4%を前提としました。
- ・ 下半期の稼働率が、前年同期比で低下する見通しですが、これは前年度の下半期の稼働率が上限に近い水準へ達していた為で、決して今年度の悪化を見通したものではありません。

✓ 年間予想の期初予想比の上ブレは、上半期影響が大半で、下半期はほぼ期初予想と同水準  
 →稼働率が上限近くの水準にある中、下半期はエンジニア数の大きな増加を見込めない為

メイテックフィルダース (百万円未満切捨て)	'15年3月期 公表予想	期初予想比 増減額	期初予想比 増減率	2四半期累計 実績	下半期予想 3Q+4Q	期初予想比 増減額	期初予想比 増減率
売上高	11,650	+250	+2.2%	5,753	5,897	▲3	▲0.1%
売上原価	9,000	+170	+1.9%	4,453	4,547	▲33	▲0.7%
原価率	77.3%	▲0.2%		77.4%	77.1%	▲0.5%	
販売管理費	1,650	▲20	▲1.2%	813	837	+17	+2.1%
営業利益	1,000	+100	+11.1%	486	514	+14	+2.8%
営業利益率	8.6%	+0.7%		8.5%	8.7%	+0.2%	
経常利益	1,000	+100	+11.1%	486	514	+14	+2.8%
当期純利益	650	+50	+8.3%	297	353	+3	+0.9%
稼働率(全体)	94.9%	+1.6%	期初予想比	93.4%	96.4%	+0.2%	
稼働時間<h/day>	9.03	+0.04	+3.0%	8.99	9.07	+0.06	
採用数<名>	288	▲10					
新卒採用数	173	—					
中途採用数	115	▲10					
退職率	9.1%	+0.5%					
				2015年4月入社 新卒採用見込み数	176	期初 予想比	+1

- ・ メイテックフィルダースの新たな業績予想と、5月に公表した期初予想との比較です。
- ・ 通期の売上高は期初予想比+2.5億円で、上半期+2.5億円、下半期は期初予想通りです。
- ・ 期初予想比での上振れ幅が下半期で縮小するのは、すでに稼働率が上限近くの水準にある中、下半期ではエンジニア社員数の大幅な増加を見込めない為です。
- ・ 通期の稼働率は期初予想比+1.6%、下半期の稼働率は期初予想比+0.2%を見込んでおり、期初の想定より業績は順調に伸長する見通しです。

- ✓ 持続的な成長の実現を通じて、中長期的に株主還元の最大化を目指す
- ✓ 利益配分に関する当社の基本的な考え方は、業績に基づいた成果配分

2011年5月改訂  
利益配分方針

総還元性向

100%以内を原則

配当

業績連動型配当

連結当期純利益の50%以上

最低限の配当

連結株主資本配当率(DOE)5%

自己株式の  
取得・  
保有・消却

自己株式の取得

月商3ヶ月分を上回る資金を自己株式取得原資

継続保有：上限2百万株

消却：上限超を消却

- ✓ 月商3ヶ月分＝「必要運転資金(ワーキングキャピタル):連結売上高の月商2ヶ月」+「財務基盤強化資金(2010年3月期に相当する危機的な市場環境になった際の事業継続資金):連結売上高の月商1ヶ月」
- ✓ 自己株式は、経営計画の目標達成等に向けて、今後の成長戦略の実行と成長に伴うリスクに対処していく機動的な財務政策を可能とするために保有

31

- ・ 2011年5月に改訂した「利益配分に関する基本方針」です。
- ・ ポイントは、①総還元性向100%以内を原則、そして、②業績連動型配当は連結当期純利益の50%以上、の2点です。

## 通期の利益配分予想の修正

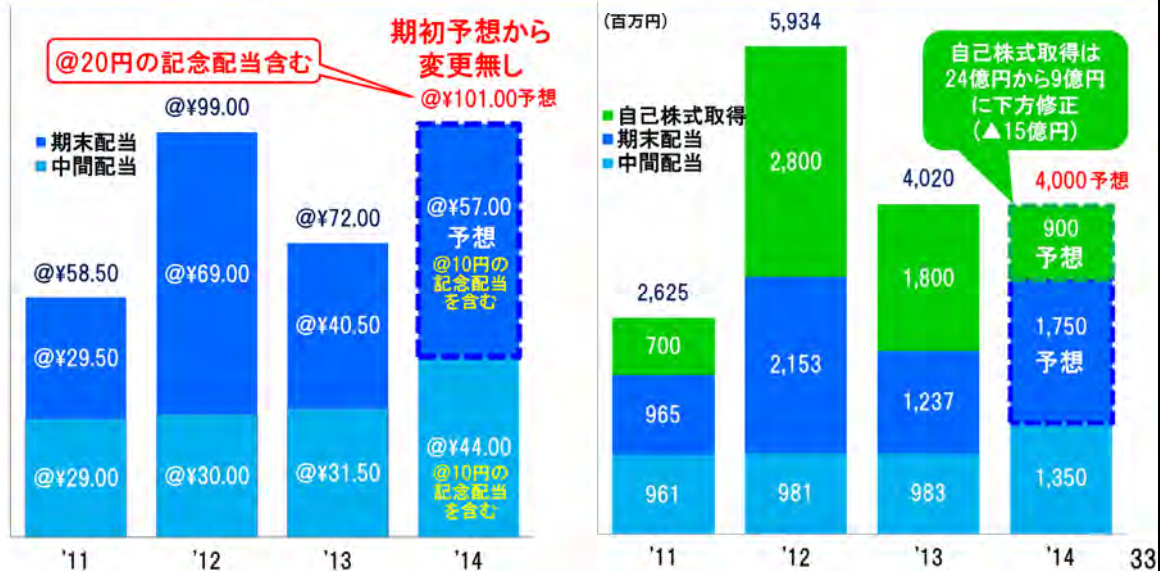
- ✓ 当年度の利益配分は「普通配当と自己株式取得」+「創業40周年記念配当」  
→「普通配当+自己株式取得」は基本方針に則し、年間で総還元性向100%以内
- ✓ 当期純利益予想を期初比▲15億円に修正  
⇒ 配当予想は不変とするが、自己株式取得予定を期初比▲15億円に修正

		今回発表予想(通期)	期初 予想比
連結当期純利益 A		約34億円	▲15
通常部分 100%以内	自己株式取得 B	約9億円	▲15
	普通配当 C	約25億円 @81.00	—
	合計 D=B+C	約34億円	▲15
	比率(通常還元) E=D/A	略100%	略±0%
	記念配当 F	約6億円 @20.00	—
	配当総額 G=C+F	約31億円 @101.00	不変
	配当性向 H=G/A	91%	+28%
	総還元金額 I=B+C+F	約40億円	▲15
	比率(総還元) J=I/A	117%	+5%

32

- ・ 通期の利益配分予想を修正します。
- ・ 本年5月に公表した通り、当年度の利益配分は、基本方針に則した総還元性向100%以内の「普通配当と自己株式取得」に加えて、「創業40周年記念配当」を実施する予定です。
- ・ 通期の当期純利益予想を下方修正しましたが、「連結当期純利益の50%以上の配当方針」を勘案し、中間配当と期末配当予想、ともに修正しません。
- ・ しかし、総還元性向100%以内の原則を勘案し、通期の当期純利益予想の下方修正▲15億円に連動して、自己株式取得予定額を24億円から9億円へ、▲15億円の下方修正とさせていただきます。

- ✓ 中間配当は、普通配当34円＋記念配当10円＝合計44円 → 13.5億円
- ✓ 期末配当予想は、普通配当47円＋記念配当10円＝合計57円 → 17.5億円
- ✓ 自己株式取得は、総額9億円を予定(期初予想比▲15億円)
- ✓ よって、利益配分合計額は40億円を予定(前期とほぼ同水準)



- ・最後に、利益配分の実績と予想です。
- ・中間配当は期初に公表した予想の通り、1株当たり44円とします。
- ・期末配当は、記念配当10円を含め57円の予想です。
- ・さきほど、説明した通り、自己株式取得は9億円に予想を修正。
- ・当期の利益配分は約40億円を予定しています
- ・当期純利益予想は前期比を下回りますが、利益配分は結果的に、ほぼ水準の予定です。
- ・私からの説明は以上です。
- ・ご清聴、ありがとうございました。

人と技術で次代を拓く

**MEITEC**

メイテックグループ

IRに関するお問い合わせ

Tel : 03-5413-0131 Mail : [ir@meitec.com](mailto:ir@meitec.com)

<http://www.meitec.co.jp>

〈ご注意〉

本資料に記載した業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

実際の業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、既に公表している有価証券報告書等で記載した「事業等のリスク」に係る事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。